

竹本昌史

地域が変えるニッポン

| 連載 | 第24回 |

農地で太陽光発電事業
広がる「ソーラーシェア」

(千葉県市原市、ソーラーシェアリング上総鶴舞)



農地に348枚のパネル
売電収入が年170万円

農地に太陽光発電の設備を設置して、農作物を栽培しながら発電事業も行う「ソーラーシェアリング」事業が全国的に盛り上がりつつある。売電による新たな収入源を確保することで、農家経営が安定するのが最大の魅力だ。事業環境は2014年秋以降、電力会社の再生エネルギー取り保留や固定買い取り制度見直しなどの逆風が起きているが、ソーラーシェアリングは力強く前へ歩み続ける見通しだ。館山自動車道の市原ICから国道297号を車で南東に約20分、下矢田地区に農産物を直売する「鶴舞297直売所」がある。この裏手にある農家の畑750平方メートルを

利用して生まれたのが、出力34.8キロワットの「上総鶴舞ソーラー発電所」だ。

発電所を建てたのは、プラスチック原料などを扱う商社「東洲物産」(東京都十代田区)の専務である高澤真氏。12年秋に東京電力と売電交渉を始めた後、市農業委員会と農地の一時転用許可を取り付けて工事に着手、14年4月から発電を開始した。

発電設備は高さ3.5メートルの単管パイプの支柱で架台を支え、そこに100ワットのソーラーパネル348枚を取り付けたもの。稼働からほぼ1年が経過したが、事業は順調に推移している。

初年度の発電量は4万キロワット時。高澤氏は「当初予想を1割以上も上回った」と話し、売電収入も想定以上の1

70万円に上ったと打ち明ける。発電所の建設資金は約1200万円で、日本政策金融公庫から借り入れたが、このまま売電収入を維持できれば、投下資金を8、9年で回収できそうだ。

太陽光パネルは道路や畑の形状など立地条件を考え、3つのブロックで構成している。日影の動きと太陽光の確保を計算して作ってあるので、発電設備の下でも農機を使って農作物を栽培できる。現に高澤氏の両親が落花生や根菜類(サツマイモやサトイモ)、葉物野菜(白菜、キャベツなど)を普段通り栽培し、297の直売所などに出荷している。

高澤氏は「いずれ実家に戻り、農業を引き継ぐ考えだが、「反収がわずか10万円そこそこ」という現状では、前途は暗い」と

話す。儲かる農業を実現する新たな道筋を考えた末に、行き着いたのがソーラーシェアリング事業だったという。

この事業について、高澤氏は「通常の農業収入に売電収入が加わることで、農家の経営が安定する点が最大のメリット」と強調する。と同時に地域社会を活性化する効果も軽視できない。「農業が儲かるとなれば、若者の帰農や新規就農が増える」「耕作放棄地の再利用にもつながられる」と



「発電所の稼働状況は上々」と語る高澤真氏(市原市で)

高澤氏は指摘していた。

パネル角度を手動で調整
発電しながら落花生栽培

千葉市を挟んで市原市の北西に位置する八千代市の保品地区でも、14年9月からソーラー発電所が稼働している。父親が所有する畑約3千平方メートルを活用して、兼業農家の今井茂氏がソーラーシェアリング協会(市原市)の支援を受けて設置したものだ。

支柱の高さはやはり3.5メートル。架台に中国から調達した1476枚のソーラーパネルがズラリと並ぶ。隙間から陽光が降り注ぎ、この下で支障なく農作業ができるよう設計してある。作物の日照確保と太陽光発電を効率良くするため、パネルの角度を1日に3回、手動で調整する。

出力は148キロワットで、

設置費は5500万円。発電事業は滑り出しから順調で、「年間15万キロワット時の発電ペースで進んでいる。売電収入は年540万円ほどになりそう」という。設置費を10年以内で回収できる助定だ。

今井氏は代々続く農家の息子で、時機を見て後を継ぎたいと考えている。「農業は天候不順などでリスクが大きく、所得が変動するのが悩み」と言う今井氏。ソーラーシェアリング事業で経営が安定するメドがついたので、15年初夏にも専業農家になる腹だ。まずは落花生の栽培を始め、営農型発電事業を軌道に乗せたいと意欲を見せる。

ソーラーシェアリング事業は農水省が13年3月、「営農継続を条件に発電事業への農地

一時転用を許可する」方針を打ち出したため、にわかに脚光を浴び出した。同省によると、14年7月時点で全国に100カ所前後の発電所が誕生、その後も増加している。先進県は千葉県で、10カ所以上も稼働しているほど。

もちろん、この事業には初期投資が大きい、3年ごとに農地の一時転用許可を更新する必要があるなどの課題がある。固定買い取り制度の見直しという逆風も起こったが、それでも事業化意欲は衰えていない。茨城や群馬、長野、静岡、岐阜など各県ではむしろ、導入意欲が高まっている。

竹本昌史

(たけもとまさし)
経済ジャーナリスト。1964年に日本経済新聞社に入社、産業、外報の記者として28年間、国内外の取材・報道を歴任、サンパワロ特派員、テレビ愛知専務を経て独立、愛知県出身。